

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名: 総社市

1. 事業の概要

事業名称	総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業
事業の目的	地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	本市はH2年以降、南米系外国人を中心とするニューカマーの来日により外国人住民が増加した地域であり、それ以前はほとんど外国人が居住していなかった。H20年のリーマン・ショックによる経済危機により、本市は大量の外国人失業者で溢れたが、その多くが日本語で日常会話すらままならないブラジル人・ペルー人だった。そのような危機的事態を迎え、外国人支援対策の一つとしてH22年に文化庁委託事業による日本語教室を開設した。しかし、外国人支援体制はまだ十分構築されておらず、本市規模の自治体では、日本語を指導できる人材が乏しく、日本語の学習機会が極めて限定されており、本市が開設する日本語教室以外に日本語を学ぶ場所がほとんどないという問題を抱えている。また、文化庁委託事業による日本語教室の開設を通じ、小規模ながらある一定数の地域住民の間に、外国人への日本語教育の必要性や住民同士の交流を通じた相互理解の重要性が認識され始めたところではあるが、外国人住民と日本人住民との交流の機会も少なく、外国人支援の歴史が浅いうえ、地域社会における多文化共生意識も低く、外国人の存在や彼らを取り巻く様々な問題点が地域社会の住民に共有されているとは言い難い状況である。さらに、ここ数年の間に南米系住民は漸減、一方、アジアからの外国人が増え始め、とりわけこの2年の間に、ベトナムからの技能実習生が5倍以上に急増するなど、総社市の外国人事情は大きな転換点を迎えている。外国人住民の多国籍化が顕著になり、日本語教育を含めた外国人支援に対するニーズが一層多様化してきている。今後の人口減少と労働力不足に鑑みれば、この傾向は続くと考えられ、とりわけ本市のような地方小都市において、地域産業を支える外国人就労者の存在は大きく、地域社会の安定的な労働力確保と地域活性化を考える時、地域社会で外国人を受け入れる施策としての日本語教育事業の意義は大きく、行政がリーダーシップを取り、地域の多文化共生施策を推進するとともに、地域社会全体が外国人支援に関わる社会システムの構築を行うことは喫緊的課題とされていた。
本事業の対象とする空白地域の状況	-
事業内容の概要	多様な機関等との連携・協力による日本語教育の実施として【取組1】「地域でつながる日本語教室」を、取組の成果の発信及び住民の日本語教育への理解の促進として【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」を、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備の推進として【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」、【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」、【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」を行った。これらの取り組みを通じ、本市の多文化共生施策を推進するとともに、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築を行った。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	小原 純	総社市 人権・まちづくり課 課長
2	中東 靖恵	岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授
3	平松 秀昭	総社市地域コミュニティ連絡協議会 会長
4	樂木 章子	岡山県立大学保健福祉学部 准教授
5	尾崎 喜光	ノートルダム清心女子大学文学部 教授



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月31日 (水) 15:00～17:00	2時間	総社市役所本庁舎 2階会議室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成29年度総社市日本語教育事業の目的・事業概要の説明 2. 各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業, 外国人就労者調査研究事業)についての概要, 年間スケジュールの説明 3. 日本語教室・サポーター育成研修への受講者申し込み状況の報告等
2	平成29年9月25日 (月) 15:00～17:00	2時間	総社市役所本庁舎 2階会議室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成29年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業, 外国人就労者調査研究事業)についての現状, 進行状況の報告 2. 各取り組みについての課題等の検討
3	平成30年3月6日 (火) 15:00～17:00	2時間	総社市保健センター 2階資料展示室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成29年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業, 外国人就労者調査研究事業)についての最終報告 2. アンケートの結果報告 3. 今年度事業の反省 4. 次年度事業への課題等の検討

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署との連携により行った外国人向け体験学習・講習の実施、AMDAグループとの多文化共生に関する協定に基づく地域医療機関との連携事業・防災教室の実施、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントを開催した。また、地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育てNPO法人との連携による子育て応援事業の実施、岡山県内・近隣地域(広島県、香川県、兵庫県、鳥取県、島根県)の日本語教室との連携による講師招聘や教室視察・交流・情報交換活動、岡山大学、ノートルダム清心女子大学など日本語教員養成課程を持つ県内の大学との連携による若手人材育成や日本語教育専門家との情報交換等、地域相互連携支援体制を整えた。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	「コーディネーター」は、運営委員も兼務し、本事業すべての取り組みの総合統括を行った。本市の日本語教室の現状及び問題点の把握をし、本市の実状に応じた日本語教育事業の企画・運営を行うとともに、専門知識、人脈、経験を活かし、専門家、指導者、支援者、行政が協力できる関係づくりを整備した。「指導者」はすべて、外国人受講者の日本語能力がゼロレベルであっても対応可能な日本語教授を行うことができる有資格者の日本語教師である。「地域でつながる日本語教室」では日本語指導を行うとともに、外国人住民の日本語学習をサポートする人材の育成を行う「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」では「講師」となり、日本語教育の専門知識を教授した。「事業担当者」は、本事業を実施するうえで必要となる各会場の提供、また講習や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識の習得及び医療・福祉・教育・防災などの行政情報の提供を行うために連携・協力が必要となる総社市各担当部署及び各種団体等多様な機関との調整、事業の広報、参加者への連絡、会計等事業遂行に必要な事務処理を行った。
----------	---

3. 各取組の報告

< 取組1 >										
取組 1	取組の名称	地域でつながる日本語教室								
	取組の目標	地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら、日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに、日本の文化・習慣および医療・防災などの行政情報を得、地域住民としての自立と地域社会への積極的参加を促す。								
	取組の内容	地域に暮らす日本人住民との交流を通じて、実践的な日本語の運用能力を身につけることのできる日本語教室を開設し、講習会や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識と、医療・福祉・教育・防災などの行政情報を提供することにより、安心して社会生活が送れるよう、また地域住民としての自立と積極的参加を促した。								
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備	有資格者の日本語教師により、受講者の日本語能力がゼロレベルであっても対応可能な日本語教授を行い、地域に暮らす外国人住民が日本語能力をしっかりと身につけられるような日本語学習の機会を提供するとともに、各種団体等多様な機関と連携・協力し、講習会や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識の習得と、医療・福祉・教育・防災などに関する行政情報の提供を行った。また、外国人住民の日本語学習をサポートする「日本語学習サポーター」として、地域に暮らす日本人住民に日本語教室に参加してもらい、日本語教室を「地域住民同士がつながる場」として機能させた。								
	取組による日本語能力の向上	文化審議会国語分科会による「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案に基づき、地域の特性を生かし策定する「H29年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(H28年度版を改訂)に従い、日本語学習シラバスを作成し、日常生活に必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図るための日本語教授を行うとともに、地域に暮らす日本人住民との交流を通じて、実践的な日本語の運用能力を身につけた。								
	参加対象者	地域に居住する外国人住民(母語、国籍は問わない)	参加者数 (内 外国人数)	82人 (82人)						
	広報及び募集方法	総社市ホームページ、広報紙「そうじゃ」、外国人住民向け広報紙、総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズホームページ、Facebook、募集チラシ(「やさしい日本語」をベースに、ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語、タイ語訳を付記)								
	開催時間数	総時間58時間(空白地域 - 時間)	当初、60時間(全30回)を予定していたが、特別警報(9/17)により、教室を1回(2時間)休講した。							
	主な連携・協働先	総社市各担当部署、医療機関、葬儀会社、書道教室、茶道講師、保育NPO法人等								
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
	17	33				3	1	18		
ペルー(5人)、アメリカ(3人)、ジャマイカ(1人)、日本(1人)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年6月11日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	16	自己紹介・日常の挨拶をする	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や語彙について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	譚 俊偉 赤澤 春香		
2	平成29年6月18日 (日) 9:30~11:30	2	総社市総合福祉センター	24	メニューを読んで理解する	レストランや飲食店のメニューを読むために必要な語彙と注文をする際に必要な表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 井上 敦子	譚 俊偉 赤澤 春香		
3	平成29年6月25日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	ごみの出し方・公共マナーを理解する	ごみの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な語彙・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】環境課職員によるごみ分別講習	高田 聡 大隅 元代	譚 俊偉 赤澤 春香		
4	平成29年7月2日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	25	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	船曳 清美 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香		
5	平成29年7月9日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	22	日本の浴衣	日本伝統文化である浴衣を含めた衣服について学び、実際に学習者・サポーターと一緒に浴衣を着付け合った。	高田 聡 大隅 元代	譚 俊偉 赤澤 春香		
6	平成29年7月23日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	19	病院探し・初診受付	病院を探して初診受付をする際に、情報を発信するために必要な語彙・表現を学び練習をした。 【イベント】「か」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 高田 聡	赤澤 春香		
7	平成29年7月30日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	17	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び、市職員を相手に電話で外国人相談員を呼ぶ実践練習をした。 【イベント】盆踊りの練習	船曳 清美 岡田 恵子	赤澤 春香		

8	平成29年8月6日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	14	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	井上 敦子 大隅 元代 松本 真明	赤澤 春香
9	平成29年8月20日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	20	日本のマナーを知る	日本の冠婚葬祭に関する習慣(服装, 香典など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】弔事のマナーを学ぶ	船曳 清美 高田 聡 小池 邦宏	譚 俊偉 赤澤 春香
10	平成29年8月27日 (日) 9:30~11:30	2	総社宮	16	総社の行事・イベントに参加する	地元の行事「力石総社」に参加した。	小川 宏子 大隅 元代	譚 俊偉 赤澤 春香
11	平成29年9月10日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	14	サイズ・色・素材を尋ねて購入する	洋服や靴などのサイズ・色・素材を尋ねて購入するのに必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準備	岡田 恵子 井上 敦子	-
12	平成29年9月17日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター			台風により特別警報が発令されたため休講		
13	平成29年10月7日 (土) 11:00~13:00	2	カミガツジプラザ	-	国際フェスタに参加する	カミガツジプラザで開催された「そうじゃインターナショナルフェスタ」に参加した。	-	-
14	平成29年10月15日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	11	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話する	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話通報するために必要な表現を学び、実践練習をした。 【イベント】中間アンケート	高田 聡 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
15	平成29年10月22日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	11	公共交通機関を利用する	公共交通機関の予約方法や時間の表示方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 井上 敦子	譚 俊偉 赤澤 春香
16	平成29年10月29日 (日) 9:30~11:30	2	総社市中央公民館	14	茶道を習う	日本文化の一つである茶道を習った。お茶のたて方、飲み方、礼儀作法も学んだ。	船曳 清美 大隅 元代 加藤三智子	譚 俊偉 赤澤 春香
17	平成29年11月12日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	29	交通ルール・交通マナー	道路標識の種類・意味や、日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】交通安全・交通マナー講習	小川 宏子 大隅 元代	譚 俊偉
18	平成29年11月18日 (土) 14:00~16:00	2	岡山県立大学	20	防災訓練に参加する	総社市主催の防災訓練に日本語教室として参加し、土のう積み訓練、救急救命講習、避難所体験などを体験した。	-	-
19	平成29年11月26日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	14	職場でのあいさつ・ことばづかいを理解する	職場での丁寧な言葉づかいやあいさつ表現、履歴書の書き方を学んだ。 【イベント】「は」から始まる言葉ゲーム	高田 聡 井上 敦子	赤澤 春香
20	平成29年12月3日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	14	病院探し・医者診察を受ける	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現を学び、実際の診察室で実践練習をした。 【イベント】「お」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
21	平成29年12月10日 (日) 9:30~11:30	2	あさのクリニック	15	病院見学・病院での受付・診察体験	総社市内にある病院で病院見学を行うとともに、病院での受付・診察を模擬体験した。	岡田 恵子 井上 敦子 浅野 直	譚 俊偉 赤澤 春香
22	平成29年12月17日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	12	年賀状を書く	年末年始に使うきまり文句や表現を学び、日本の年末行事として年賀状を書く体験をした。 【イベント】年末茶話会	船曳 清美 高田 聡	-
23	平成30年1月7日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	20	慶事の文化風習・マナー	日本の正月や縁起物など慶事に関する習慣(祝儀, 服装など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】獅子舞	高田 聡 大隅 元代	譚 俊偉 赤澤 春香
24	平成30年1月14日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	日本・岡山の観光, 日本の1年	日本国内・岡山県内の四季・観光地・祭り・イベントや名物名産について知り、それらの情報を得るための表現を学んだ。 【イベント】「き」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香

25	平成30年1月21日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	道を尋ねる,道を教える	道を尋ねたり,道を教えたりするために,場所や道順を教える語彙や表現を学んだ。 [イベント]すごろく	高田 聡 井上 敦子	譚 俊偉 赤澤 春香
26	平成30年1月28日 (日) 9:30~11:30	2	総社市消防署	19	火災で110・119番に電話する(消防署見学)	総社市消防署で消防署見学を行うとともに,110番・119番に通報する方法や防災について学び,通報訓練や消火訓練を行った。	船曳 清美 大隅 元代	譚 俊偉 赤澤 春香
27	平成30年2月4日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	30	地域や学校の行事・イベントを知る	日本の地域や学校の行事・イベントに関する語彙,季節・時間に関する表現を学んだ。 [イベント]節分の歌・豆まき	岡田 恵子 井上 敦子	譚 俊偉 赤澤 春香
28	平成30年2月11日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	買い物を体験する	日常生活の活動として頻度の高い「買い物」を取り上げ,買い物行為に必要な語彙・表現を学び,シミュレーションを行った。 [イベント]「と」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	譚 俊偉 赤澤 春香
29	平成30年2月18日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	17	薬局を利用する。薬の説明を理解する	薬の種類,薬袋や処方箋に書かれてある語彙・表現を学び,必要な薬を買う練習をした。 [イベント]最終アンケート	高田 聡 井上 敦子	赤澤 春香
30	平成30年3月4日 (日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	引っ越しのあいさつをする	公共マナーと,引っ越しの際に使う決まり文句や引っ越しのあいさつ時に贈る物について学んだ。 [イベント]合同修了式	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【第17回 平成29年11月12日】
交通ルール・交通マナーを学ぶ
講師: 総社市市民生活部交通政策課 交通安全指導員 竹下 加奈子, 岩本 多加子
市職員による交通安全講習が行われ, 標識や交通ルールに関する絵札を使った神経衰弱ゲームなどを通じ交通マナーを学んだ。



取組事例

【第21回 平成29年12月10日】
病院見学・病院での受付・診察体験
講師: あさのクリニック 院長 浅野 直
市内病院で病院見学を行い, 受付の練習や診察, 薬局での薬の購入の模擬体験を実施するとともに, 病院で使う日本語や受診方法などを学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

・昨年度に引き続き, 地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成29年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(30単位)に従い, 学習シラバス(2時間×30回=60時間)を作成して授業を行った。毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでのコーディネーター・指導者・日本語学習サポーター・市職員との話し合い, 日本語教室受講者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により, 以下に挙げるような一定の成果を上げることができたことが確認された。

日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上: 日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果, 日本語の4技能(聞く・話す・読む・書く)における能力向上, きちんとした日本語が使えるようになった, 日本の文化や習慣を知ることができたと感じる者が多かった。また, 日本語教室が楽しい, 日本語を使って日本人と話す機会が増えた, 日本人と交流する機会が増えたと回答している受講者が多く, 日本語教室が「日本語を使って住民同士が交流する場」として機能しており, 教室参加が受講者の日本語コミュニケーション能力向上を促進する役割を果たしていることを確認することができた。

地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供: 総社市日本語教室における外国人向け体験学習・講座の実施は総社市各担当部署との連携により, また, その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は, 岡山県内のNPO, 各種機関・団体との連携により行った。日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果, 総社市役所の情報を知ることができたという回答者が多く, 体験学習・講座の実施が一定の効果を上げていることが確認された。具体的な連携については, 次の(ア)(イ)に挙げたとおり。

(ア) 総社市各担当部署との連携
環境課美化推進係によるゴミ分別講習(平成29年6月25日) 総社市主催の夏祭り「雪舟フェスタ」への参加(平成29年8月5日) 交通政策課による交通安全講習(平成29年11月12日) 総社市防災訓練への参加(平成29年11月18日) 総社市消防本部による消防署見学・消火訓練(平成30年1月28日)

(イ) 岡山県内のNPO, 各種機関・団体との連携
徳真書道教室講師による日本語教室での書道講習(平成29年8月6日) (株)いのうえの講師による甲事のマナー講習(平成29年8月20日) 茶道講師による茶道講座(平成29年10月29日) あさのクリニックでの病院見学・受診体験(平成29年12月10日)

地域住民同士がつながる場の提供: 今年度も引き続き, 「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」における研修の一環として, 地域に暮らす日本人住民が, 外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」として日本語教室に参加することにより, 教室内でより細やかなサポートを行えるようにするとともに, 「地域住民同士がつながる場」として日本語教室が機能するよう, 外国人住民と日本人住民との交流を促す試みを行った。日本語教室受講者の日本語能力のレベル差が大きいことから, 教室活動における日本語学習サポーターの役割は大きく, また, 地域で顔を合わせる機会の多い地域住民であること, 継続して参加するサポーターの存在もあり, 受講者との関係性の構築や教室内でのサポートの方法などの面で, この仕組みがより一層うまく機能し, 地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられた。

地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り: 今年度は, 総社市役所ロビーでの展示に加え, 10月7日(土)に行われたSOJA INTERNATIONAL FESTA会場, 総社市図書館, 市内各公民館, 地元信用金庫本店ロビーでの展示, 新たに地元大型商業施設, 勤労者総合福祉センター, 市内JR駅構内に日本語教室のパネル展示を行い, 日本語教室活動の様子が例年より多くの市民の目に触れることとなった。そしてパネル展示を見た市民から心温まるメッセージが多数寄せられた。また, 今年度から市内の各スーパーマーケットにも募集チラシを置くことで, 外国人に対する日本語教室の周知に加え, 地域の日本人住民に対しても外国人住民の認識を含めさらなる周知を図った。地域社会に対して外国人支援活動に対する理解を求めるとともに, 日本語教室が地域に暮らす外国人住民と日本人住民をつなぐ場となり, 地域住民による外国人支援活動を地域社会に根付かせることができるよう今後も引き続き日本語教室活動の一環として行っていきたい。

(3) 今後の改善点について 取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

日本語教室の授業内容・教授方法:昨年度の反省を踏まえ、改訂を行った「平成29年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」に従って授業シラバスを作成した。各テーマを担当する日本語指導者を昨年度とできるだけ入れ替え、授業内容にバリエーションを持たせるよう工夫した。また、1回完結型の会話コミュニケーション重視の授業形態は、受講者に対して「いつ来ても日本語教室に参加できる」という安心感を与えることができるものだと再認識できた。

日本語教室の運営・実施体制:

ア)複数の日本語指導者によるローテーション体制:今年度においては、6人の有資格者によるローテーション体制によって教室運営を行った。各授業担当者がメールで授業報告(受講者人数、受講者の国籍・日本語レベル等、授業で扱った文型・内容、授業中気になったこと)をすることで、授業内容の確認、引き継ぎ、情報共有を行った。日本語教育の質を確保するため、本市事業においては有資格者で、教歴が長く、かつ、多様な形態での教授経験を持つ日本語教師を指導者として配置しているが、指導者の評判が大変良いので、今後も引き続き有資格者による日本語教室運営を行っていきたい。

イ)日本語学習サポーターの教室参加:H24年度から、人材の養成・研修の一環として、地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在(=サポーター)として参加するという形態をとっているが、6年が経ち、その仕組みが日本語教室内にすっかり定着し、円滑に機能している。日本語学習サポーターによるきめ細やかな補助を行いながら、教室運営をしていくという方法は、地域日本語教育の教室運営の在り方の一つとして有効であることを実感している。

日本語教室の受講者:本市では、できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう、小さな子供のいる家庭でも日本語教室に参加できるよう、無料で保育・託児を設けている。安定的な託児体制を整えるため、本年度初めて託児を予約制としたが、1年を通じて行ったことで徐々に定着しつつある。また、授業内容や授業の方法においてさまざまな工夫を行い、常に授業改善を行っている。その成果もあり、受講者総数が80名を超え、毎回の授業参加者数も安定はしていたが、受講者で参加回数に差があり、1年を通じて受講した人は少なく、教室に継続して来ることが難しいことは相変わらずである。また、今年度は一昨年から急激に増加したベトナム人技能実習生の受講者も大きな割合を占めたが、参加者や参加数の変動が顕著であったことから、今後の外国人事情の動向も踏まえつつ事業の方向性を考えたい。

< 取組2 >

取組2	取組の名称		地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業						
	取組の目標		地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに、外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら、多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行う。						
	取組の内容		地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする「日本語学習サポーター」を育成するため、外国人支援・多文化共生・日本語教育に関する知識を身につけるための「学習研修」と日本語教室に参加して日本語学習をサポートする方法を実践的に学ぶ「実践研修」を行った。また、市職員に対しても、多文化共生意識の啓発・向上と「やさしい日本語」の習得を目的に研修を行った。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		岡山大学の教授陣、公益財団法人ひろしま国際センターの日本語教育の専門家による講義・ワークショップと、事業主体担当部署である総社市人権・まちづくり課国際・交流推進係長による多文化共生推進施策の現状と課題に関する講義により、地域の外国人事情と地域社会が抱える問題を知り、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする方法を教示するとともに、【取組1】「地域でつながる日本語教室」に参加し外国人支援を実践することで、多文化共生施策への意識啓発・意識醸成と、日本人住民の外国人に対する日本語教育への理解の促進を図った。						
	取組による日本語能力の向上		外国人支援・多文化共生・日本語教育に関する知識を身につけるための「学習研修」に加え、本市に開設する日本語教室に参加し、日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「実践研修」を行い、机上の知識の習得だけでなく実際に外国人住民と交流することで、地域に暮らす外国人が日常生活で必要とする日本語がどのようなものかを学び、また、外国人住民は日本人住民との交流を通じ、実践的な日本語の運用能力を身につけることができた。						
	参加対象者		外国人住民の支援に関心のある地域住民(日本人住民、日本語に堪能な外国人住民)	参加者数 (内 外国人数)		16人 (0人)			
	広報及び募集方法		総社市ホームページ、広報紙「そうじゃ」、募集チラシ配布、Facebook						
	開催時間数		総時間31時間(空白地域 - 時間)	学習研修:2時間×3回=6時間		実践研修2.5時間×10回=25時間			
	主な連携・協働先		岡山大学、公益財団法人ひろしま国際センター、NPO法人保育サポートあいあい						
	参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
		日本(16人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
学習研修(外国人支援に関する基本的な知識習得を行った)									
	平成29年6月4日(日) 13:30~15:30	2	総社市保健センター	12	総社市における多文化共生施策の概要	総社市における外国人事情・多文化共生施策の概要、平成29年度総社市日本語教育事業日本語学習サポーター育成研修オリエンテーション	中東 靖恵 河原 睦弘	-	
	平成29年7月2日(日) 13:30~15:30	2	総社市保健センター	8	「やさしい日本語」講座	「やさしい日本語」の説明、作り方、ワークショップ	犬飼 康弘	-	
	平成29年9月10日(日) 13:30~15:30	2	総社市保健センター	8	日本語教育事業の広報活動	日本語教育事業の広報活動について、展示による周知の検討・作成	-	-	
実践研修(下記の日本語教室に参加し、日本語学習のサポート方法を学んだ)									
1	平成29年6月11日(日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	10	自己紹介・日常の挨拶をする	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や語彙について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	-	-	
2	平成29年6月18日(日) 9:30~12:00	2.5	総社市総合福祉センター	6	メニューを読んで理解する	レストランや飲食店のメニューを読むために必要な語彙と注文をする際に必要な表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言葉ゲーム	-	-	
3	平成29年6月25日(日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	10	ごみの出し方・公共マナーを理解する	ごみの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な語彙・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】環境課職員によるごみ分別講習	-	-	

4	平成29年7月2日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	10	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	-	-
5	平成29年7月9日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	10	日本の浴衣	日本伝統文化である浴衣を含めた衣服について学び、実際に学習者・サポーターと一緒に浴衣を着付け合った。	-	-
6	平成29年7月23日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	12	病院探し・初診受付	病院を探して初診受付をする際に、情報を発信するために必要な語彙・表現を学び練習をした。 【イベント】「か」から始まる言葉ゲーム	-	-
7	平成29年7月30日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	6	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び、市職員を相手に電話で外国人相談員を呼ぶ実践練習をした。 【イベント】盆踊りの練習	-	-
8	平成29年8月6日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	6	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	-	-
9	平成29年8月20日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	4	日本のマナーを知る	日本の冠婚葬祭に関する習慣(服装、香典など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】弔事のマナーを学ぶ	-	-
10	平成29年8月27日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社宮	5	総社の行事・イベントに参加する	地元の行事「総社力石」に参加した。	-	-
11	平成29年9月10日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	6	サイズ・色・素材を尋ねて購入する	洋服や靴などのサイズ・色・素材を尋ねて購入するのに必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準備	-	-
12	平成29年9月17日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター		台風により特別警報が発令されたため休講		-	-
13	平成29年10月7日 (土) 11:00~13:30	2.5	カミガツジプラザ	-	国際フェスタに参加する	カミガツジプラザで開催された「そうじゃインターナショナルフェスタ」に参加した。	-	-
14	平成29年10月15日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	4	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話する	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話通報するために必要な表現を学び、実践練習をした。 【イベント】中間アンケート	-	-
15	平成29年10月22日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	6	公共交通機関を利用する	公共交通機関の予約方法や時間の表示方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言葉ゲーム	-	-
16	平成29年10月29日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市中央公民館	6	茶道を習う	日本文化の一つである茶道を習った。お茶のたて方、飲み方、礼儀作法も学んだ。	-	-
17	平成29年11月12日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	2	交通ルール・交通マナー	道路標識の種類・意味や、日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】交通安全・交通マナー講習	-	-
18	平成29年11月18日 (土) 14:00~16:30	2.5	岡山県立大学	3	防災訓練に参加する	総社市主催の防災訓練に日本語教室として参加し、土のう積み訓練、救急救命講習、避難所体験などを体験した。	-	-
19	平成29年11月26日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	9	職場でのあいさつ・ことばづかいを理解する	職場での丁寧な言葉づかいやあいさつ表現、履歴書の書き方を学んだ。 【イベント】「は」から始まる言葉ゲーム	-	-
20	平成29年12月3日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	4	病院探し・医者診察を受ける	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現を学び、実際の診察室で実践練習をした。 【イベント】「お」から始まる言葉ゲーム	-	-

21	平成29年12月10日 (日) 9:30~12:00	2.5	あさのクリニック	7	病院見学・病院での 受付・診察体験	総社市内にある病院で病院見学を行うとともに、病院での受付・診察を模擬体験した。	-	-
22	平成29年12月17日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	7	年賀状を書く	年末年始に使うきまり文句や表現を学び、日本の年末行事として年賀状を書く体験をした。 【イベント】年末茶話会	-	-
23	平成30年1月7日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	3	慶事の文化風習・マナー	日本の正月や縁起物など慶事に関する習慣(祝儀, 服装など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】獅子舞	-	-
24	平成30年1月14日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	4	日本・岡山の観光, 日本の1年	日本国内・岡山県内の四季・観光地・祭り・イベントや名物名産について知り、それらの情報を得るための表現を学んだ。 【イベント】「き」から始まる言葉ゲーム	-	-
25	平成30年1月21日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	7	道を尋ねる, 道を教える	道を尋ねたり, 道を教えたりするために, 場所や道順を教える語彙や表現を学んだ。 【イベント】すごろく	-	-
26	平成30年1月28日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市消防署	9	火災で110・119番に 電話する(消防署見学)	総社市消防署で消防署見学を行うとともに, 110番・119番に通報する方法や防災について学び, 通報訓練や消火訓練を行った。	-	-
27	平成30年2月4日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	3	地域や学校の行事・ イベントを知る	日本の地域や学校の行事・イベントに関する語彙, 季節・時間に関する表現を学んだ。 【イベント】節分の歌・豆まき	-	-
28	平成30年2月11日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	7	買い物体験する	日常生活の活動として頻度の高い「買い物」を取り上げ, 買い物行為に必要な語彙・表現を学び, シミュレーションを行った。 【イベント】「と」から始まる言葉ゲーム	-	-
29	平成30年2月18日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	5	薬局を利用する。薬 の説明を理解する	薬の種類, 薬袋や処方箋に書かれてある語彙・表現を学び, 必要な薬を買う練習をした。 【イベント】最終アンケート	-	-
30	平成30年3月4日 (日) 9:30~12:00	2.5	総社市保健センター	10	引っ越しのあいさつ をする	公共マナーと, 引っ越しの際に使う決まり文句や引っ越しのあいさつ時に贈る物について学んだ。 【イベント】合同修了式	-	-

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【第 回 平成29年7月2日】
「やさしい日本語」講座
講師:公益財団法人ひろしま国際センター 日本語常勤講師 犬飼 康弘
「やさしい日本語」の解説や作成のポイントを実際の文章等を使って学び、実践的に「やさしい日本語」に言い換えるワークショップを行った。



取組事例

【第 回 平成29年9月10日】
「総社市における多文化共生推進施策に関する意識調査(H27年度調査・H28年度発行)」を元に多文化共生施策の現状を踏まえ、一般市民への重要な広報活動の一つである展示について内容を検討し、作成を行った。また、これまでの研修等を踏まえ、「やさしい日本語」への言い替えについての展示物作成について検討した。



(2) 目標の達成状況・成果

・本市に暮らす住民を対象に、外国人支援に関する基礎的知識を教授する「(ア)学習研修」と、本市が開設する日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「(イ)実践研修」の2つの研修を行った。毎回の授業終了時に行うミーティングでの指導者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、日本語学習サポーター育成研修受講者に対して行った中間・最終アンケート調査の結果により検証を行い、一定の成果を上げることができたことが確認された。

外国人支援に関する基礎的知識の習得:「総社市に住んでおられる在日外国人の方の現状を具体的に知る事ができた」「外国人の方にとって日本語は、どこが難しいのか、どの様に理解されているのかを知ることができた」「総社市にも、色々な国の外国人が生活していることを実感できた」といったコメントが寄せられ、普段の教室活動を通じて感じる基礎的知識を習得することの重要性が認識された。

外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得:「何気なく話している日本語についても、書き順や他の国での書き方、表現の仕方等、本当に勉強になる」「参加されている外国人の方の服装など全てが真新しく、日本人とは捉え方が違うのだな、と感じている」「自分の住む地域社会に何らかの貢献ができていて実感が得られている」といったボランティア参加を行うことで誰かの役に立っているという喜びとともに、外国の文化や習慣を知るだけでなく自国のことについても改めて考えることの必要性が感じられるコメントが寄せられた。

地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り:H24年度から開始した「日本語学習サポーター」という仕組みを導入して6年目を迎えたが、継続して参加するサポーターの数が増え、サポーター同士のつながりも広がりを見せ、より一層この仕組みがうまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられ、外国人支援や多文化共生に対する地域住民の意識啓発につながったものと考えられる。「日本人として、外国人の方へ、もっとたくさん日本のいい所を伝えていけたら、と思うことが増えた」「今後は、サポーターだけでなく地域住民の方たちにもより広く知ってもらえたらと思う」といったコメントも寄せられ、市民自身の多文化共生に対する意識が徐々に向上している。また平成27年度からサポーター自身による「浴衣の着付け」(H29年7月9日)を行っており、サポーターの成長と自主的活動の広がりを見ることができた。

(3) 今後の改善点について

「日本語学習サポーター」という仕組みは本市教室のスタイルとして定着しつつある。だが一方で、地域全体における日本語教育事業の認知度はまだそれほど高くなく、日常生活における日本人住民と外国人住民との接触が非常に少なく、外国人支援や多文化共生に対する意識もまだ低い。今後、人材の確保・育成及び地域への広報活動を継続して行っていきたい。

< 取組3 >

取組3	取組の名称		地域コミュニティ連携防災訓練事業						
	取組の目標		地域に暮らす外国人住民に対し、地域コミュニティ、外国人防災リーダー、行政が連携し、外国人集住地区において、地域コミュニティが主催する防災訓練に参加する機会を外国人にも広く周知・提供し、外国人住民に必要な防災知識の習得と災害時に必要な日本語習得を促し、情報伝達ができないことによる災害時要支援外国人住民を減少させるとともに、防災訓練を通じて、日本人住民との「顔が見える関係づくり」と外国人支援意識の向上・啓発を図る。						
	取組の内容		地域コミュニティと連携し、行政主催の防災訓練に外国人住民が参加し、災害時に使用する実用的な日本語を教授した。地域の防災訓練に外国人住民が参加することで、地域の一員として日本人住民と「顔が見える関係づくり」を行った。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		総社市内の地域コミュニティ協議会及び本市に暮らす外国人を中心に構成されている外国人コミュニティ、行政等との連携により、地域に暮らす日本人住民と合同で防災訓練を行ったことで、防災知識の習得と災害時のより実用的な日本語習得の機会を提供した。						
	取組による日本語能力の向上		防災訓練を通して、体験的に災害時に使う日本語を学ぶ場を創出したことにより、災害時に使われる用語の認知度を上げたとともに、災害時に使用する実用的な日本語の習得を図った。また地域に暮らす日本人住民と「顔が見える関係づくり」ができ、お互いにコミュニケーションをとれるようになることにより、日常会話をする機会も増え、日本語学習意欲の促進や日本語能力の向上も期待できる結果となった。						
	参加対象者		地域に居住する日本人住民及び外国人住民	参加者数 (内 外国人数)		500人 (38人)			
	広報及び募集方法		総社市ホームページ、外国人住民向け広報紙、総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズホームページ、Facebook、募集チラシの配布・送付(「やさしい日本語」)、日本語教室での呼びかけ						
	開催時間数		総時間2時間(空白地域 0 時間)						
	主な連携・協働先		総社市内の地域コミュニティ協議会、外国人防災リーダー、総社市危機管理室(防災・災害担当)						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		7	16				1		12
		アメリカ(2人)、日本(5人) 防災訓練参加者総数:約500人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年11月18日 (土) 14:00~16:00	2	岡山県立大学	43	地域コミュニティ連携 防災訓練事業	防災担当課・消防署・消防団員・外国人防災リーダーによる避難所の説明・体験、地震体験訓練等の体験型訓練の実施。	-	譚 俊偉 赤澤 春香 グエン タン ドン	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【第1回 平成29年11月18日】
講師: 総社市総務部危機管理室 室長 河田 秀則
 総社市総務部危機管理室 主査 中島 俊明
 総社市総務部危機管理室 嘱託 小池 初男
補助者: 総社市民生活部人権・まちづくり課 多文化共生推進員 譚 俊偉, 赤澤 春香
 IHD協同組合 通訳 ゲン タンドン
調整: 地域コミュニティ連絡協議会 会長 平松 秀昭
市内にある岡山県立大学グラウンドにおいて地域住民を対象に開催された市主催の防災訓練に、外国人住民が参加しやすいように、「やさしい日本語」でチラシ及び当日の配置図を作成し、配布した。また、外国人労働者を雇用している市内企業や〔取組1〕と連携し日本語教室に対し参加を促した。当日は、防災担当課や消防署職員、消防団、外国人防災リーダーが指導者として、各訓練について説明・指導を行った。補助者は訓練内容や指導を通訳した。参加者は各説明を受けた後、実際に訓練を行った。体験型訓練として、地震体験訓練、煙体験訓練、救命救急訓練、初期消火訓練、土のう積み訓練、避難所体験訓練を実施した。合同放水訓練や高所からの救出訓練の見学を行った。実施方法や内容などについては、地域コミュニティ連絡協議会会長と事前に調整を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

・本事業は平成27年度から実施しているが、本年度は地域住民を対象に開催された市主催の防災訓練に、外国人住民が参加しやすいようにする事業を試みた。地域コミュニティと連携し、これまでは日本人住民が主に参加していた市主催の防災訓練に外国人住民が参加するという画期的な試みである。防災訓練を通して防災知識を身に付けるだけでなく、体験的に日本語を学習することを目的とした。日本語教室に通っている外国人住民だけでなく、日頃、日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。また、地域の日本人に対しても、外国人住民の存在を知ることができたことも、「顔の見える関係づくり」において大きな一歩であった。

(3) 今後の改善点について

・今後も継続していく中で少しずつ具体的な成果が得られるようになっていくだろうが、防災訓練を通じ、地域の一員として日本人住民と「顔の見える関係づくり」ができ、お互いにコミュニケーションをとれるようになることによって、日常会話をする機会も増え、日本語学習意欲の促進、ひいては日本語能力の向上も期待できる。また、防災訓練に参加する日本人住民に対しては、徐々に外国人支援意識の向上・啓発を図ることができると考えられる。

< 取組 4 >

取組 4	取組の名称		地域ではぐくむ子育て応援事業						
	取組の目標		市内の保育・子育てNPO法人との連携により、子育て世代の外国人保護者と子供を対象に、同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識を学びながら育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、日本人保護者と子供等との交流の場を通じて、地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで、外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育てを応援する。						
	取組の内容		本市を拠点に子育てサポートを行うNPO法人と連携し、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加できる体制を整え、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識や子育てに関する日本語を学び、親子で一緒に遊んだり、利用者同士で話をするなど楽しみながら日本語の習得を行う場を提供することで、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人保護者が日本人保護者との交流を深め、情報を得られる場として機能させ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行った。また、本事業を通じ、日本語学習に対する意欲・関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促し、さらなる日本語能力の向上を図るような仕組み作りを行った。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		総社市を拠点に活動する保育・子育てNPO法人と連携することにより、従来日本人向けに行われている子育て事業に外国人親子が参加できる体制を整え、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて、子育てに関する基礎的知識と子育てに関する日本語を習得する機会を提供するとともに、「子育て」を共通のテーマに外国人親子と日本人親子との交流と情報交換の場として機能させ、外国人親子が子育て世代のコミュニティに参加するきっかけとした。						
	取組による日本語能力の向上		「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する実用的な日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促すことで、さらなる日本語能力の向上も期待できる結果となった。						
	参加対象者		地域に居住する外国人親子及び日本人親子	参加者数 (内 外国人数)		40人 (23人)			
	広報及び募集方法		総社市ホームページ、外国人住民向け広報紙、総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズホームページ、Facebook、募集チラシの配布・送付(「やさしい日本語」をベースに、ポルトガル語、英語、中国語訳を付記)						
	開催時間数		総時間6時間(空白地域 0 時間)						
	主な連携・協働先		NPO法人保育サポートあい・あい、NPO法人きよね夢てらす子育て応援こっこ						
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		3	0	0	0	1	0	0	2
		日本(17人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年10月24日(火) 10:30~12:00	1.5	天満屋ハピータウンリブ総社店3階「なかよし広場」	14	インターナショナル子育て広場	外国にルーツを持つ3歳までの乳幼児とその保護者と日本人親子が集まる「子育て広場」。自己紹介、手遊び、わらべ歌遊び、フリートークなど。	-	赤澤 春香	
2	平成29年11月19日(日) 9:30~12:00	2.5	総社市総合福祉センター	11	チュッピータウンへ行こう!	主に乳幼児から小学生低学年以下の子供とその家族を対象としたブース型イベント。ステージでの音楽パフォーマンスや人形劇のほか、手作りおもちゃコーナー、お琴体験コーナー、スラックライン体験コーナーなど。	-	-	
3	平成30年1月21日(日) 10:30~12:30	2	天満屋ハピータウンリブ総社店3階「なかよし広場」	2	インターナショナル子育て広場	外国にルーツを持つ3歳までの乳幼児とその保護者と日本人親子が集まる「子育て広場」。自己紹介、体操、タオルを使ってのふれあいなど。	-	-	
4	-	-	-	-	子育て応援 案内チラシの作成	総社市ファミリーサポートのセンターの案内チラシを「やさしい日本語」で作成し配布。	-	-	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【第1回 平成29年10月24日】
「インターナショナル子育て広場」
連携先: NPO法人きよね夢てらす 子育て応援っこ
補助者: 総社市市民生活部人権・まちづくり課 多文化共生推進員 赤澤 春香
やさしい日本語に加え、ポルトガル語・中国語・英語に訳したチラシを作成し、対象世帯(外国にルーツを持つ3歳までの乳幼児とその保護者)へ送付。通訳が必要な場合は事前予約。
当日は、自己紹介(出身、こどもの名前、好きなことなど)、簡単な手遊びゲームやわらべ歌遊びをした後、おしゃべりタイムを設けた。出産や子育て文化の違いを知ることができただけでなく、外国にルーツを持つ子どもを育てる上での特異な悩みや、国に関係なく共通の悩みがあることを共有できる場となった。



取組事例

【第2回 平成29年11月19日】
「チュッピータウンへ行こう!」
連携先: NPO法人保育サポート あい・あい
やさしい日本語、ポルトガル語・中国語に訳したチラシを作成し、対象世帯(外国にルーツを持つ小学生低学年までの子どもとその保護者)へ送付。通訳が必要な場合は事前予約。
当日は、音楽パフォーマンス、人形劇等のイベントのほか、バルーンアート、昔遊び、お琴体験、スラックライン体験、もちつき等のブースを自由に回りながら参加した。プログラムや会場図をやさしい日本語に訳し、当日外国人参加者に配付した。また、各外国人家族が会場を回りやすくするために、会場内にはやさしい日本語、ポルトガル語・中国語・英語に訳した案内表示を貼った。日本人参加者約800人という大規模イベントの中、少数の外国人親子も自然に参加できる体制で臨むことができ、日本人参加者との交流も行えた。また、日本人参加者に対しても、多文化共生の推進を周知する機会にもなった。



(2) 目標の達成状況・成果

・外国人親子に対して「子育て」に関する情報を得られる場があるという生活情報を提供でき、外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場として機能させることができた。さらに本事業の参加者が、【取組1】の日本語教室へ参加をするようになるなどの一定の成果があった。また、やさしい日本語や多言語による案内表示をするなど、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域の日本人住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(3) 今後の改善点について

・周知方法や事業実施の際にうまく連絡の行き届かない点はあったが、本市で保育・子育てサポートを行うNPO法人との連携はスムーズで、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行うための第一歩となった。今後もニーズを把握しながら改善を図ることで、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促していきたい。

< 取組5 >

取組5	取組の名称		地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業						
	取組の目標		従来から本市に多く居住しているブラジル・ペルーなどの南米系の外国人就労者に加え、近年、中国・フィリピン・ベトナム・インドネシアなどアジア諸国の技能実習生が急速に増加している状況から、外国人住民を雇用している企業に対しヒアリング調査を実施し、日本語教育支援の実態とニーズや課題を明らかにし、今後の企業と行政との連携・協働の可能性について検討する。						
	取組の内容		<p>企業で働く外国人就労者への日本語教育支援に関し、以下の2つの調査を行った。</p> <p>1. 外国人を雇用する企業主へのアンケート調査</p> <p>2. 企業で就労する外国人就労者へのアンケート調査</p> <p>1については、外国人を雇用している総社市内の企業主を対象に、外国人を雇用するうえでの日本語教育支援に関するニーズや現在の状況について、2については、企業で働く外国人就労者(主に技能実習生として就労するベトナム人)を対象に日本語教育支援に関するニーズについてアンケート調査を行った。技能実習生を多く抱える2つの企業の人事担当者に事前にヒアリングを行い、その結果に基づきアンケート調査票を作成し、調査を実施した。</p>						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	-						
	取組による体制整備		本市日本語教育事業運営委員兼コーディネーターである岡山大学大学院准教授と、事業主体担当部署である総社市人権・まちづくり課国際・交流推進係長を中心とした行政職員との共同企画により、外国人住民を雇用している(今後雇用を予定している)企業と、日本語教育支援という観点から協力体制の構築を模索した。						
	取組による日本語能力の向上		-						
	参加対象者		-				参加者数 (内 外国人数)	人 (人)	
	広報及び募集方法		-						
	開催時間数		総時間2時間(空白地域 0 時間)						
	主な連携・協働先		総社市内食品・製造・縫製関連企業6～7社						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		-							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成30年3月8日(木) 17:00～19:00	2	岡山大学	-	アンケート調査結果の検討	<p>企業で働く外国人就労者への日本語教育支援に関し、以下の2つの調査を行い、検討した。</p> <p>1. 外国人を雇用する企業主へのアンケート調査</p> <p>2. 企業で就労する外国人就労者へのアンケート調査</p>		-	-

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【外国人を雇用する企業主へのアンケート調査】
平成28年度に技能実習生を多く抱える2つの企業の人事担当者にヒアリング調査を行った結果に基づき、外国人を雇用するうえでの日本語教育支援に関するニーズや現在の状況についてアンケート調査票を作成し、総社市内食品・製造・縫製関連企業の企業主に対しアンケート調査を実施した。
企業対象アンケート
実施時期:平成29年9月～10月
調査票送付企業数:15社
回答社数:9社(回答率60.0%)

取組事例

【企業で就労する外国人就労者へのアンケート調査】
平成28年度に技能実習生を多く抱える2つの企業の人事担当者にヒアリング調査を行った結果に基づき、外国人を雇用するうえでの日本語教育支援に関するニーズや現在の状況についてアンケート調査票を作成し、総社市内食品・製造・縫製関連企業で働く外国人就労者(主に技能実習生として就労するベトナム人)を対象に日本語教育支援に関するニーズについてアンケート調査を実施した。
外国人就労者対象アンケート
実施時期:平成29年12月～平成30年1月
調査票送付企業数:15社
回答者数:78名

(2) 目標の達成状況・成果

・企業で働く外国人就労者への日本語教育支援に関し、予定していた以下の2つの調査を行った。
1. 外国人を雇用する企業主へのアンケート調査
2. 企業で就労する外国人就労者へのアンケート調査
1については、調査票を配布した15社中9社より回答を得ることができ、労働者不足により外国人を雇用する必要性があること、日本語能力が十分でない外国人就労者がかなりの割合で見られるものの、日本語教育を行う余裕がない実態等が明らかとなった。
2については、78名より回答を得ることができた。日本語で困っていることとして、方言が理解できない、日本語のコミュニケーション全般に問題を抱えていること、病気になった際に病状を日本語で伝えられない等、具体的な課題が浮き彫りとなった。また、日本語能力全般の向上を望む声もあるが、それ以上に、日本人と日常会話ができるようになりたい、日本人と交流がしたいという声のほうが大きいことが明らかとなった。
以上の調査結果は、来年度早々に報告書を作成し、本市ホームページに掲載する予定である。

(3) 今後の改善点について

これまでも日本語教育事業運営に際し、地域社会が抱える問題を解決すべく調査研究を行ってきたが、本取組は、本市における調査研究事業第3弾として位置付けられ、地域日本語教育を取り巻く課題を総合的観点から把握・分析するために重要な取り組みである。今後、アンケート結果を分析・検討し、[取組1]「地域でつながる日本語教室」と、外国人の日本語学習支援を行う人材育成のための[取組2]「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」との連携を図り、地域産業を支える企業との連携・協力をも視野に入れ、地域全体が生活サポートとして外国人の日本語教育支援に参加できるような地域内での協力体制の構築を考えていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・各取り組みについての目標達成状況・事業の成果については、毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」、ミーティングでの指導者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、毎月1回行うコーディネーター・指導者・市職員との打ち合わせ会、及び、日本語教室受講者・日本語学習サポーター・指導者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により検証を行い、一定の成果を上げることができたことが確認された。

・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上、地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供、地域住民同士がつながる場の提供、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り、という点において一定の成果が認められた。総社市日本語教室における外国人向け体験学習・体験講座の実施は総社市各担当部署（環境課美化推進係、交通政策課、総社市消防本部）、また、その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は、岡山県内のNPO、各種機関・団体（徳真書道教室、(株)いのうえ、茶道講師、あさのクリニック）との連携により行った。

・【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」においては、外国人支援に関する基礎的知識の習得、外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りという点において一定の成果が認められた。外国人支援に関する基礎的知識の教授においては、公益財団法人ひろしま国政センター教授陣・岡山大学教授陣らに協力を仰いだ。

・【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」においては、行政と連携し、地域コミュニティの多大なる協力により、多くの地域住民が防災訓練に参加し、日本語教室に通っている外国人住民だけでなく、日頃、日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。

・【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」においては、「子育て」に関する情報提供及び外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場の提供を行うことができ、従来日本人向けに行われていた子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

・【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」においては、日本語教育支援に対する企業主と被雇用者である外国人双方の実態とニーズを把握するためアンケート調査を実施した。外国人の雇用に関する様々な情報を得ることができた。今後の行政との連携や日本語教育支援に関するニーズについて把握することができたことは大きな成果であった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署（環境課美化推進係、交通政策課、総社市消防本部）との連携により行った外国人向け体験学習・講習会の実施、岡山県内のNPO、各種機関・団体（徳真書道教室、(株)いのうえ、茶道講師、あさのクリニック）との連携による生活情報・行政情報の提供、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントの開催・地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育てNPO法人との連携による子育て応援事業の実施のほか、岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動・相互連携等については以下の通りである。

日本語教室視察

- ・就実大学（インターンシップ学生）：1名（平成29年9月10日）
- ・内閣府日系定住外国人施策担当：2名（平成29年11月12日）
- ・文化庁スタートアッププログラム採択団体：京都府福知山市7名・佐賀県三養基郡基山町1名（平成29年11月12日）
- ・岡山市国際課（日本語教室担当）：1名（平成29年11月12日）
- ・大阪府堺市：1名（平成30年2月11日）

* 大阪府堺市：国際化推進プラン改訂にかかる意見聴取として、事前にコーディネーターを訪問（担当係長、日本語教育コーディネーター：2名 / 平成29年9月28日：議題「プラン改定における本市日本語教室事業の現状にかかる課題解決や今後の方向性について～総社市での取組事例を通じて～」）

- ・福山国際外語学院：1名（日本語講師）（平成30年2月18日）
- ・NGOふくやま日本語教室「ともだちひろば」：1名（平成30年3月4日）
- （公財）全国市町村研修財団（公財）全国市町村国際文化研修所（JIAM）での講義（コーディネーターが講師を担当）
 - 1 平成29年度第1回「多文化共生マネージャー養成コース」での講義（平成29年7月12日：担当科目「地域づくりの手法」）
 - 2 平成29年度第2回「多文化共生マネージャー養成コース」での講義（平成30年1月17日：担当科目「地域づくりの手法」）
 - 1 平成29年度第1回「多文化共生の地域づくりコース」での講義（平成29年8月30日：担当科目「日本語教育」）
 - 2 平成29年度第2回「多文化共生の地域づくりコース」での講義（平成30年2月1日：担当科目「日本語教育」）
- 平成29年度文化庁地域日本語教育コーディネーター研修講師（西日本地域・大阪）（平成29年10月12日～13日、平成30年2月23日：コーディネーターが講師を担当）
- 岡山市国際課・岡山市国際交流協議会「平成29年度多文化共生のまちづくりセミナー」での「やさしい日本語」研修講師（平成30年3月5日：コーディネーターが講師を担当）

コーディネーターである岡山大学大学院准教授による学術論文刊行：中東靖恵「岡山県総社市における多文化共生の現状と課題ー地域日本語教育の推進に向けた地域住民への実態調査ー」『岡山大学文学部紀要』67号、PP.35-51（平成29年7月）

外国人集住都市会議「津会議2017」への出席（平成29年11月20日）

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・事業の周知・広報は総社市ホームページ、広報紙「そうじゃ」、外国人向け広報紙、総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズホームページ、Facebook等で行った。募集チラシを、従来の市役所及び公民館への設置や関係企業への配布に加え、市内の各スーパーマーケットにも募集チラシを置き周知を図った。

・事業周知の一環として、日本語教室パネル展示を総社市役所本庁舎ロビーに加え、10月7日（土）に行われたSOJA INTERNATIONAL FESTA会場、総社市図書館、市内各公民館、地元信用金庫本店ロビーでの展示、新たに地元大型商業施設、勤労者総合福祉センター、市内JR駅構内にて行った。

・【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」の報告書を刊行し、本市ホームページに掲載予定。

(5) 改善点、今後の課題について

・日本語教室に来ることのできない外国人への日本語学習支援：日本語教室の存在が地域社会に徐々に周知され始め、「地域住民同士がつながる場」として機能し始めたことは事業の大きな成果ではあるが、一方で、日本語教室に来たくても来られない外国人住民や、地域社会で暮らしていくうえで日本語教育が必要であると考えられるにも関わらず日本語学習をしない（できない）外国人住民がいる。今年度も引き続き【取組3】【取組4】を行ったが、この問題の解決に向け、今後も継続して考えていきたい。

・今年度初めての試みとして、【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査」を行った。今後も技能実習生の増加がしばらく続くと考えられるため、外国人就労者の問題について、企業と行政とが日本語教育支援という点での連携・協力体制の構築について検討していきたい。

(6) その他参考資料

- ・平成29年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム
- ・日本語教室受講者募集チラシ
- ・日本語学習サポーター育成研修受講者募集チラシ
- ・日本語教室受講者用中間アンケート結果
- ・日本語教室受講者用最終アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用中間アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用最終アンケート結果
- ・日本語指導者用中間アンケート結果
- ・日本語指導者用最終アンケート結果
- ・地域コミュニティ連携防災訓練事業チラシ
- ・地域ではぐくむ子育て応援事業チラシ
- ・地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業アンケート調査票